



国際会長 (IP) Ulrik Lauridsen (Denmark)

“Let Your Light Shine”

「輝かそう、あなたの光を」

会長 古田 和彦
副会長 秋元 美晴
書記 古賀 健一郎
会計 大高 治
直前会長 古賀 健一郎

アジア太平洋地域会長 (AP) 利根川 恵子 (川越)

“Be the light for change”

「変革のための光となろう」

監事 松島 美一
ブリテン 伊藤 誠彦
担当主事 立花 明美

東日本区理事 (RD) 山田 公平 (宇都宮)

“Instil Confidence in our Youth”

「未来のために今、学びと気づきを！未来のために、自信を育み、真の喜びに出会う！」

湘南・沖縄部部長 (DG) 黒川 勝 (金沢八景)

「初心に帰り、新たな船出を踏み出そう」

副題：「ワイズメンズクラブはYMCAとともに」

横浜クラブ会長 (CP) 古田 和彦

「楽しんで、できる範囲で、YMCA と地域に仕えよう」

<今月の聖句>

古田 和彦

それから、トマスに言われた。「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。また、あなたの手を伸ばし、わたしのわき腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」トマスは答えて、「わたしの主、わたしの神よ」と言った。イエスはトマスに言われた。「わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は、幸いである。」
(ヨハネによる福音書 20 : 27-29)

今月のひとこと

「初めて」からの成長と学び

立花 明美

私は以前 8 階事務所で日本語学科に勤務していました。キャリアはあるものの、初めての学校業務に戸惑いながらも、「自分のやりたかった日本語学校の仕事(業務)」に付ける事の嬉しさでいっぱいでした。初めての書類作成、初めての入国管理局、初めての許可受理……。学校は書類作成だけではなく、学生や関係機関とのやり取りもあります。学生のバックグラウンドや世界情勢を調べたりして、「違い」を理解するよう学びました。私はその後、厚木にある YMCA 健康福祉専門学

校に 4 年、川崎にある YMCA 国際ビジネス専門学校に 6 年、合計 10 年という時間を他校に勤務し、そして去年 2023 年 4 月に横浜 YMCA 学院専門学校(横浜中央 YMCA)へ戻ってきました。学生たちと直接関わることで、本当の「違い」の意味を理解しました。それは見た目の違いだけではなく、価値観や国/地域、宗教等の違いによって、私が考えていることや伝えたことが伝わらないことです。今も初めての気づきがあり、驚くことがあります。

さて、私の 16 年間の学校事業の中で、心に深い印象を残した事柄が 1 つあります。それは横浜中央 YMCA 学院で初めての卒業生を送り出したその冬に起きたことです。それは卒業生の「死」でした。その学生は大学希望でしたが、なかなか進学先が決まらず、何度も担任教員と相談していた学生でした。やっと大学進学が決まり大学 1 年生となり、「これから」という時でした。あまりにも突然の「死」でしたので、私だけではなく担任教員や同級生たちも心の整理をすることが難しかったです。何度も教員と話をすることで、少しずつお互いの傷ついた心が癒され、次への一步を踏み出すことが出来たように思います。

人が感じる「初めて」とは、実は脳に負担がかかる事です。その初めてには、興奮、不安、好奇心、驚き、恐れ、喜びなど、初めての瞬間は心に深い印象を残します。新しいことに挑戦することは、人の成長と学習の機会でもあります。「初めて」の瞬間は色々な感情が渦巻きますが、それでも私を成長と学習の機会を与え続けています。

<2024年3月例会実績>

在籍者	出席者	出席率	B F
12名	メ 6名 メネット 0名 コメット 0名 ビジター 2名 ゲスト 7名 合計 15名	67% (メーキャップ 2名を含む) 前月修正 出席率 %	今月分 切手 0g 現金 0円 年度累計 切手 0g 現金 0円

<4月の行事予定>

W4W・RBM

日	曜	時間	行事内容	場所
5	金	16:00	中央Yキックオフミー ティング	中央YMCA
11	木	18:30	横浜クラブ第一例会	中央YMCA
25	木	17:00	横浜クラブ第二例会	Zoom

<3月第一例会報告>

古賀 健一郎

日時：3月14日(木) 18:30~20:30

開催方法：ハイブリッド形式例会(会場 横浜中央Y+Zoom)

【会場参加者】秋元、大高、古賀、齋藤、立花、古田
《ゲスト》大江浩(卓話者) クロタカ マーク&明美(入会
予定者)、稲本誠一、稲本佑子、亀井紀人《ビジター》鈴木
茂(横浜つづき)

【Zoom参加者】《ゲスト》古屋節子 《ビジター》辻剛(横
浜つづき) 合計15名

例会は、古賀ワイズの司会により定刻に開始。古田会長の開
会点鐘、挨拶。ワイズソング、ワイズの信条の唱和。ゲスト、
ビジター紹介の後、司会者による聖句朗読とお祈りがあつた。
卓話は、社会福祉法人賛育会の大江浩赤ちゃんのいのちを守る
プロジェクト事務局長による『賛育会「赤ちゃんのいのちを
まもるプロジェクト』と題してのお話。

(以下は大江浩氏のお話の抜粋です)。

社会福祉法人賛育会(1918年、東大YMCA有志により創
立)は、2024年度に「赤ちゃんのいのちを守るプロジェク
ト」事業開始に向けて、事務局を設置し(私が事務局長を拝
命)、諸準備を進めてきました。本日は、その要点をお話し
たいと思います。

1. 前職：「興望館」(1919年—日本キリスト教婦人矯風
会外国人宣教師たちが創立)

私は、日本YMCA同盟を離れた後、2020年度から3年
間は、賛育会と同じ墨田区の社会福祉法人興望館で法人常
務理事とこども園園長を務めました。興望館は軽井沢に児
童養護施設沓掛学荘(1940年)を運営しており、約8-9
割が被虐待児という様々な困難や深刻な問題を抱えた子ど
もたちを支援する児童養護施設の現実と社会的養育の大

切さ・重要性を知りました。

2. 賛育会「赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト」に
ついて

- 賛育会が取り組む3つの理由
賛育会の原点：困窮下の母子の保護・保健・救済／キ
リスト教の隣人愛と実践：ともに生きる社会への新
たな使命／看過できない“静かなる非常事態”＝予
期せぬ妊娠や孤立出産＝困窮下の母／嬰兒の遺棄と
貧困・虐待・家庭崩壊等
- 賛育会病院の現状・実績
母子生活室への延相談件数／介入が必要だった分娩
／出産における国籍の多様性
- 【5段階】の取り組み一何をもいつから？(2023
は準備の年度)
2024：【第1段階】匿名相談(妊娠SOS相談)／
【第2段階】内密出産／【第3段階】匿名での預け
入れ(「赤ちゃんポスト」(仮称))
2025：【第4段階】母子支援／【第5段階】ネット
ワーク構築
- 賛育会の5つの強み
理念と使命と実践／地域密着型の保健医療&福祉／
地域社会からの信頼の歴史／キリスト教ネットワー
ク／役職員の使命感と情熱、理解と協力
- 7つのChallenge
首都圏初&前例がない／自らの任務と限界と体制／
通常事業との両立、持続可能性／資金／“見えない”
社会悪の闇／“見えない”社会の壁／“人権”命の尊
厳
- 社会のセーフティネット構築—関係団体や区・
都・児相・警察等との連携協力
- 賛育会プロジェクトのVision, Mission
・赤ちゃんポストと内密出産は、母の“最後の砦”／
赤ちゃんの命の“最初の一歩”
・プロジェクトが“不要となる社会”を願って、“静か
なる非常事態”と向き合う
・すべての人の命が守られる、即ち“誰一人取り残さ
ない”社会に向けて取り組む
- プロジェクトの根拠
「最も小さき者の一人にしたのは、即ち、私にしたの
である」(マタイ25章40節)
「私たちは大きなことはできません。小さなことを大
きな愛をもって行うだけです」(マザー・テレサ)

(大江さんのお話の感想として)

大江氏は、卓話のはじめに、興望館沓掛学荘(児童養護施設)
との関りから、児童虐待や家庭内暴力や家庭崩壊の現実につ
いて考えさせられ、心を痛めたと言われました。

また、そうした問題意識が今、賛育会の「赤ちゃんのいのち
を守るプロジェクト」に深くつながっているとされました。

賛育会のプロジェクトは、社会の複雑な問題に対して具体
的な解決策を提案するものであると思います。私自身も、この
プロジェクトが示すビジョンと、それが目指す「誰一人取り残
さない社会」への取り組みに、強く共感します。

賛育会がこれから進めていく「赤ちゃんのいのちを守るプ
ロジェクト」は、私たち全員にとって大切な学びとなりました。

★ 強い義務感をもとう 義務はすべての権利に伴う ★

今後も、このような貴重な取り組みを通じて、社会全体で支援が必要な人々に手を差し伸べ、共に成長していくことが求められていると感じています。

+++++

卓話の後はビジネス。今後の予定等を確認。今月のハッピー・バースデー者を拍手でお祝した。会長の閉会点鐘で定刻に終了。



第101回 YMCA-Y's 協議会報告

秋元 美晴

第101回 YMCA-Y's 協議会が、3月5日(火) 19:00から20:30まで、横浜中央YMCAを会場としてハイブリッドで開催されました。オンラインによる参加者も含めて、20名でした。今回の担当は、厚木ワイズメンズクラブ。開会礼拝は、黙禱に続き、阿部正伴部担当主事が「マルコによる福音書11章12節～25節」を朗読し、祈禱をなさいました。

協議会は、厚木ワイズメンズクラブの佐藤節子会長の司会のもと、佐竹横浜YMCA総主事と黒川勝ワイズメンズクラブ湘南・沖縄部部長の挨拶から始まりました。協議の①Y-Y's協議会の今後の在り方については、前回の協議会で、若木ワイズから提出された負担軽減案を踏まえて、YMCA、ワイズ側から意見が出されました。YMCA側の佐竹総主事からは、ワイズとの協議会は大切であり従来通り開催することを望むこと、その構成者についてYMCA側は従来通り担当主事を予定していること、ワイズ側の事はワイズで決めてほしいとの発言がありました。ワイズ側の黒川湘南・沖縄部部長からは書面を基に、6月と12月は部長・総主事など少人数で活発に意見交換し、3月と9月は従来通りの構成で各クラブ間やYMCAとワイズメンズクラブ間の交流や親睦を深めるのはどうかという提案があり、それについて協議しました。その結果、回数はこれまでどおり年4回で、3月、6月、9月、12月の第2火曜日の19:00～20:30開催とし、ワイズ側の構成員については、6月、12月は部長・書記等少人数としますが、クラブ会長始め参加できる方が参加することを否定するものではないことを確認しました。②2024年度横浜YMCAイベント及び周年行事については、各クラブの例会とイベントを合わせることで、行事イベントの出席者を増やしてほしいという提案がありました。

報告の①横浜YMCA会員大会ピースフォーラムは、ハイブリッドで行われましたが、合計188名の出席があったこと、②子ども支援(BAPY)基金のためのチャリティーゴルフは約70万円の寄附があったこと、③国際・地域協力募金には6,945,818円の寄附があったことが阿部正伴部担当主事より報告がありました。④第3回横浜YMCAユースリーダー感謝会は3月

16日(土)10:00より開かれる予定だということが、三上淳鎌倉クラブ担当主事より話されました。⑤各クラブからの報告。都筑クラブ:1月に1名、2月に2名の計3名が入会。5月17日、18日には富士山YMCAで1泊2日の他クラブとの合同例会を予定。横浜クラブからも数名参加予定。横浜クラブ:4月に2名の入会を予定。3月第一例会では「賛育会」の卓話があること。鶴見クラブ:3か所で歌声広場が開かれるという報告がありました。⑥立花横浜クラブ担当主事よりピンクシャツデーの付箋が配られました。20:30に閉会。横浜クラブの参加者:佐竹、立花、古田、秋元の各ワイズ。

次期クラブ会長・部役員研修会参加報告

古田 和彦

3月9日(土)午後1時から翌10日(日)12時まで次期クラブ会長・部役員研修会が御殿場の東山荘で開催されました。私は、次期クラブ会長として3月10日朝食まで参加しました。会議はコロナ期の知恵で、リアルとZoomの併用での開催でしたが、顔と顔を突き合わせて話し合うことができたことは、リアル参加者にはうれしいことで、互いに再会を喜び合いました。

内容は、次の通りでした。

3月9日

- ・開会式 ・研修1 ①能登地震とそれへの募金活動 ②法人化がめざすもの ③アジア太平洋エリア・国際の現況 YMCA理解・パートナーシップ ④東日本区の現状と、2024-2025年度東日本区次期理事方針 ・記念撮影 ・夕食懇談会 ・部長を囲んで

3月5日

- ・朝食 ・日曜礼拝 ・研修2 各事業主任の目標・活動方針と意見交換
- ・研修3 ①部事業主査の役割 ②事務手続きのポイント ③ITアドバイザー ④歴史アンからのお願い ⑤ワイズメネットについて ⑥質疑応答 ・閉会式

私が参加している中で大切だと思うところを報告します。

まず、ワイズメンの世界と日本の現勢です。世界では2023年8月1日現在8地域に21287名、東日本区は2024年1月1日現在56クラブ726名です。世界、東日本区とも前年対比で減少しています。その現実を受け止めたうえで、理事2年目となる山田公平ワイズの2024-25年度方針は次のようなものです。

理事主題は「ワイズの方向を見極める」とし、御自身の経験から、ユースが自分たち自身で計画し実行していく「ユースアクション計画」を支援していくことがワイズの使命であること、各クラブは他クラブやYMCAと連携協力して質の高い地域活動やイベント・講演会を行い、クラブライフを充実していくことが会員増強にもつながると話されました。自分らしく、自分のペースで「Well Being」、クラブライフの充実を感じられれば、自信をもって友人を誘い、おのずと会員は増える。長い目で取り組む必要があるので、理事も2年続けて務めるとのことでした。

もう一つ、YMCA理解について、東日本区担当主事の大沢篤人さんから、世界YMCA VISION 2030が紹介されまし

た。

<世界 YMCA VISION 2030>

「YMCA ビジョン」私たちのビジョンは、一人ひとりが自分自身と、社会と、そして被造物と調和し、生きることができる世界です。

「YMCA ミッション」私たちのミッションは、公正で持続可能であり、公平でインクルーシブな世界を築き、すべての人が身体、心、精神の面で成長できるように、世界中の若者とコミュニティをエンパワーメントすることです。

「運動を広げる 4 つの柱」Community Wellbeing、Meaningful Work、Sustainable Planet、Just World（コミュニティウェルビーイング、やりがいのある仕事と環境の創造、持続可能な地球のために、公正な世界の実現のために）は、世界 YMCA に連なる私たちの目指す方向が示されたと感じました。

こののち、次期理事方針について話し合い、山田次期理事の方針に沿ってクラブ運営を行うことを確認しました。夜、「部長を囲んで」とのセッションがありましたが、湘南・沖縄部は部長不参加のため、東新部に合同し、それぞれの活動について話し合いました。

湘南・沖縄部からのリアル参加者は横浜クラブ古田和彦、鎌倉クラブ板崎淑子でした。

近況報告

佐竹 博



横浜 YMCA の総主事として丸 4 年が経ちました。会員の皆様に支えられ、懸命に働く職員たちによって、横浜 YMCA はこの 4 年間乗り切ってきました。思えば私の総主事としての任期はコロナとともに始まりました。本来ならば、12 年間総主事を務められた田口努さんのお働きを多くの会員の皆様とともに感謝し、その功績を汚さぬようバトンとしての聖書を引き継ぐ予定でした。しかしコロナにより、総主事の交代する就退任式は YMCA チャペルにて、常議員の皆様ご列席のもと、静かに執り行われました。その時に田口さんから手渡しで、司式の荒井仁牧師が手を添え、祈りとともに引き継いだ聖書の重みは、忘れられません。そしてその重みは、実際の重さよりも日に日に重くなっていると感じます。神様の前で YMCA 総主事としての責任を果たすことがどんなに大変かを今 4 年経ち、日々感じているということなのだと思います。

この 4 年間、あっという間でした。しかし 1 日 1 日はというと、毎日がとてもとても長く感じていました。毎日は長く感じ、過ぎてみればあっという間というのは矛盾していて、なぜかなどのようなのですが、正直な感想です。うれしいことも、悲しいことも、大成果も事件も、いろいろありながらも励ましてくださり、気にかけてくださるワイズの皆さんをはじめとした会員の方々、そしてすべき課題を一つ一つクリアしてくれた職員たちの働きにより今があると心から感謝しています。

この 4 年間、あっという間でした。しかし 1 日 1 日はというと、毎日がとてもとても長く感じていました。毎日は長く感じ、過ぎてみればあっという間というのは矛盾していて、なぜかなどのようなのですが、正直な感想です。うれしいことも、悲しいことも、大成果も事件も、いろいろありながらも励ましてくださり、気にかけてくださるワイズの皆さんをはじめとした会員の方々、そしてすべき課題を一つ一つクリアしてくれた職員たちの働きにより今があると心から感謝しています。

「近況」として最近読んだ本をご紹介します。「ザ・ゴール」という 500 ページ以上あるイスラエルの物理学者が書いた工場再生の小説です。副題が「企業の究極の目的とは何か」となっていて、3 か月後に成果が出なければ閉鎖を通告された工場責任者が、新たな視点を与え自ら考えることをアドバスの「教授」から学び、仲間とともに行動変容し、仕組みを見直し、成果を出すというものです。YMCA は企業ではないし、製品を製造する工場でもないの、仕掛け品や在庫、廃棄率など関係なさそうに思えるのですが、公益法人にも十分に役立つ考え方が随所にある内容でした。

もう一つは「日本一長く服役した男」という NHK の記者が書いたドキュメンタリーです。「無期懲役」というのは刑の終わりがなく、出所するのは仮釈放であること。終身刑との違い、仮釈放までの様々な事例、仮釈放後の社会生活などが 20 歳で殺人事件を起こし、無期懲役の判決、61 年後に仮釈放の決定、60 年間染みついた生活習慣、60 年で変わってしまった刑務所の外の世界、その中で生きていく姿と受け入れる人々のことが書かれています。犯罪被害者の感情、80 歳を超えた高齢者としての社会での生活、人権、人間らしく生きるとは、など深く考えさせられました。

書籍に限らず、ジャンルにこだわらず、先入観を排除して、新しい知識や学びを得ることは驚きとともに楽しい発見でもあります。想像の範囲から得る結果で満足するよりも、外れはあったとしても自分の想定を超えていくチャレンジをこれからも続けていきたいと思えます。

第二例会報告

大高 治

日時 ; 2024 年 3 月 28 日 (木) 17:00 ~ 18:00

出席者 ; 秋元、大高、古賀、立花、古田

場所 ; ZOOM

古田会長のお祈りに続いて開始。

1、行事予定の確認

3 月 28 日 (木) 第二例会から 6 月 13 日 (木) 第一例会までの確認。

2、協議・報告事項

(1) 4 月例会

- ・クロタカ マーク、明美さんの入会式 : 4 月 11 日 (木) 18 時半から
- ・立会者 : 部会員増強事業主査の佐藤節子さん。各位バッヂ要
- ・当日 2 人に渡す資料一式は立花さんに届く。
- ・卓話「YMCA とワイズの働き」は古賀ワイズにお願いする。

(2) 5 月、バス旅行 (富士山 YMCA に 1 泊)、つづきクラブに合流。

- ・5 月 17 日 (金) 午前 10 時、市営地下鉄「センター南駅」に集合後バスで出発。途中で昼食。午後富士山着。夕食はバーベキュー。
- ・5 月 18 日 (土) 朝食後バスで出発、観光、東山荘経路で夕刻までに帰着。
- ・出発場所の詳細、緊急連絡先、富士山到着後のプログラ

★ 強い義務感をもとう 義務はすべての権利に伴う ★

ムなど、より詳細なプログラムを古田会長からつづきクラブに問い合わせ、共有する。

- ・会費：1万6千円程度。
- ・参加予定者：大高、古賀、齋藤、古田。
その他；遠藤ワイズの返事待ち、立花ワイズ自家用車で17日のみ参加。クロタカ夫妻要確認。ゲストにも案内する。
- (3) 東日本区大会 6月1日 帯広
・参加予定者；大高、古賀、齋藤、古田
- (4) 6月例会13日は、総会の準備例会とする。報告資料の準備、次年度の課題等
・総会（兼例会）は7月11日（木）
・立花ワイズが13日参加出来ないが予定通り開催する。
- (5) ブリテン4月号編集計画；異議なし
- (6) 次年度役員：今年度の役割を原則継続とする。
会長；古田、副会長；秋元、書記；古賀、会計；大高、ブリテン；秋元（立花、古田）。
事業委員：地域；齋藤、ユース：古賀、国際交流；秋元、会員増強；古田。
- (7) その他
・W4W (Week for Waste)：4月のCS事業としてのクリーン作戦は、中央YMCAから横浜クラブに案内して頂き、出られる方に出て頂く。
① ロータリークラブが常盤町の掃除；7:30から1時間。
② 美しい港を作る会；4月16日8:45から1時間（年2回）横浜中央YMCAに集合し関内地区の清掃を行う。
・亀井紀彦氏から入会を見合わせたい旨連絡あり。

3月31日(日) 横浜YMCA/横浜YWCA イースター合同早天礼拝 @横浜中央YMCA 9F チャペル

4月例会プログラム

日時：4月11日(木) 18:30~20:00
場所：中央YMCA

司会 秋元 美晴

1. 開会点鐘および挨拶・・・古田会長
2. ワイズソング・ワイズの信条・・・全員
3. 今月の聖句・・・古田ワイズ
4. ゲスト・ビジター紹介・・・古田会長
5. 入会式 クロタカ マーク、クロタカ 明美
6. 卓話
「私のYMCAとワイズ」・・・古賀ワイズ
7. ビジネス・報告・・・古田会長
8. *Happy Birthday* 該当なし
9. 閉会点鐘・・・古田会長
例会報告：秋元ワイズ

5月の行事

日	曜	時間	行事内容	場所
17	金		横浜クラブ第一例会・横浜つづき合同例会	富士山YMCA
23	木	17:00	横浜クラブ第二例会	Zoom
25	土	14:00	横浜YMCA 会員総会	

当ブリテン及び横浜ワイズメンズクラブに関するお問い合わせは、YMCA 立花 明美にご連絡下さい。

メール tachibana_akemi@yokohamaymca.org
電話 045-661-0080



担当主事 立花 明美

3月は卒業される方々の他、来月から新しく仲間となる方々の研修等も行われる時期です。それぞれの門出を祝い、新たな一歩を踏み出せる準備をする時となりました。

専門学校は横浜YMCA カレッジグループで合同卒業式を行い、3校161名の学生が卒業しました。その内、留学生は80名です。

3月18日(金)~4日(月) 新人職員宿泊研修 @富士山YMCA

3月1日(金) 日本語学科 落語研究会講演

3月8日(金)~10日(日) 日台合同留学説明会 @台湾各YMCA

3月19日(火) 横浜中央YMCA スタッフ研修

3月21日(木) 横浜YMCA カレッジグループ合同卒業式 @神奈川県立音楽堂

3月23日(土) ウクライナカフェ

3月25日(月) 国際情報ビジネス科ホテル見学会 @ザ・リッツカールトン・東京

★ 強い義務感をもとう 義務はすべての権利に伴う ★